

情報機器を活用した表現運動の実践

常盤小学校（実践・報告者） 関根正雄

1 単元名 表現（表現運動）・縄跳び（基本の運動） 第3学年（体育）

2 単元の見込み

- (1) ・空想の世界を即興的に表現したり、表したい感じを誇張したひと流れの動きを工夫して表現できるようにする。 (運動)
- ・短縄や長縄を操作して、いろいろな遊びをすることができる。 (運動)
- (2) ・友だちのよい動きを見つけられることができる。 (態度)
- ・めあてをもって意欲的に縄跳びに挑戦して楽しむことができる。 (態度)
- (3) ・一人一人が意見を出し合って、課題解決のための動きを工夫したり、活動の仕方を工夫したりして、練習や発表をすることができる。 (学び方)
- ・自分の力に合っためあてをもつことができる。 (学び方)

3 情報機器活用の意図

本単元を展開するにあたっては、表現及び縄跳びのそれぞれの特性を十分児童に味わわせるとともに、運動量の確保、マネージメントの時間、そして場づくりの工夫や意欲を喚起するための音楽や情報機器等の活用についても吟味し、授業づくりを進めた。特に、意識調査で好感度の低かった表現運動については、音楽や情報機器を活用し、表現に対する意欲の喚起を図り、恥ずかしさを取り払い、体全体を使って表現することのすばらしさを伝えたいと考えた。そこで、マビカを活用し、上達していく表現を動画として残すとともに、兄妹チームでの教え合い活動を深めるのにも役立てていきたいと考え、以下の実践に取り組んだ。

手立て1... マビカを用いた動画の撮影・活用

マビカのムービーモードでは、画像の大きさにもよるが、1枚のフロッピーに15秒の動画を3回取り入れることができる。そこで、グループ毎に即興表現を撮影し、兄妹チームの教え合い活動等に活用した。また、授業後もTVモニターにマビカをつなげ、自分たちの表現の高まりを確認・修正することに役立てた。



< 兄妹チームの撮影 >



< グループでの動きの確認 >

手立て2... スライドショーによるイメージカードの紹介

即興表現では、全員が描いた「ジャングル探検隊」のイメージカードを利用した。そこで、事前にプロジェクターを活用し、スライドショーでイメージカードを紹介し、即興表現がイメージしやすくなるようにした。



< イメージカードの紹介 >

4 指導計画・授業実践（5時間扱い・本時3時間目）

表現（縄跳び 略）			
段階	学習のねらい・活動	指導・評価	評価方法
はじめ 25 x 1	1 学習のねらいと進め方を知り、単元の見通しをもつ。 2 準備運動をする。（慣れの運動） ・グルーピングを決める。 3 いろいろなイメージを即興表現で踊って楽しむ。 ・やわらかい感じ（宇宙遊泳） ・ダイナミックなほげしい感じ（忍者、戦い場面）	学習のねらい（ねらい1・ねらい2）と学び方について理解させる。 タイコに合わせて元気よく行わせる。 上手な人の動きを見せたり、自分で実際に動いたりして気が付いた点等を発表させまとめる。 学習のねらいを理解し、見通しをもつことができたか。	自己評価 教師の評価
なか 25 x 2	ねらい ジャンгл探検隊（空想的な世界）を表現して楽しむ。 1 準備運動・慣れの運動をする。 2 自分たちの考えたジャンгл探検隊（空想的な世界）を即興的に表現して楽しむ。 ・2人組で即興的に表現する。（2人x3回：1人1回行う） ・グループ（6人）で表現する。 3 兄妹チームで見合い、ミニ発表会をする。（相互評価をする） 	タイコのリズムに合わせて、いろいろな動きをさせる。 イメージカードをもとに2人組で即興的に表現させる。その後、グループに分かれ、表現を工夫させる。 動・静、高・低など動きに変化をつけ表現方法を工夫している児童やグループを称賛する。 友だちのよい動きを見つけることができたか。 グループで協力して、運動に取り組むことができたか。 	教師の評価 相互評価 自己評価 学習カード
なか 30 x 2	ねらい ジャンгл探検隊の物語をつくり、表現して楽しむ。 1 準備運動・慣れの運動をする。 2 自分たちの考えた物語（ジャンгл探検隊）を表現して楽しむ。 ・ストーリーで表現する。（はじめ、なか、おわり） 3 発表会をする。 ・兄妹チームで見合う。 ・互いに評価をし合う。（相互評価） 4 学習のまとめをする。	タイコを使い、雰囲気を高めさせる。前時の動きを復習させる。 ストーリーに従い、グループ6人の動きにそれぞれ変化をつけさせる。正面を意識させる。（本発表） 感想や意見が出せるように、観点を決めて見合いをさせる。（マビカの活用） めあてに沿った、身体表現をすることができたか。 グループで教え合い協力して、表現運動に取り組むことができたか。	教師の評価 相互評価 自己評価 学習カード

5 成果と課題

「先生、表現って楽しいね。」本時の授業終了後に、男の子が言ってきた言葉である。恥ずかしがらず、体全体を使って表現する喜びを味わっていたようである。このような雰囲気の中で、授業を展開することができたのは、音楽や情報機器の活用があったからだと考える。特に、マビカは3年生の児童にも活用しやすく、スイッチの切り替えで、撮影はもちろんすぐに動画を見ることができ、グループでの表現力を高めていくのに有効に機能したと考える。今後は、撮影した表現を編集をし、「H16 ジャンгл探検隊」として保存し、来年度に生かせればと考える。また、表現だけでなく他の運動でも、その特性を味わうことができるよう情報機器を活用していきたい。